

(当センター事務局が公表資料をもとに作成)

## 「平成 26 年 8 月の不順な天候～異常気象分析検討会の分析結果～」の概要

- △ 8 月の降水量平年比は、西日本太平洋側で 301%と 1946 年の統計開始以来最も多い記録となりました。また、日照時間平年比は西日本太平洋側で 54%と 1946 年の統計開始以来最も少ない記録に、西日本日本海側で 42%と 1980 年に次いで 2 番目に少ない記録となりました。
  
- △ この天候不順は南から暖かく湿った気流の持続等によりもたらされました。これは、7 月末-8 月上旬は台風北上、8 月上旬以降は日本付近の偏西風が南に偏り、かつ南北に蛇行したことが関連したと見られます。蛇行の要因は、太平洋東部やインド洋東部で海面水温が高かったこと等が考えられます。
  
- △ 「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」第 5 次評価報告書は、地球温暖化進行に伴って今世紀末までに、中緯度の陸域のほとんどでは極端な降水がより強く、より頻繁となる可能性が非常に高くなる、と予測しています。短時間強雨の増加傾向は、地球温暖化が関連している可能性がありますが、観測期間が短く、今後のさらなるデータ蓄積が必要です。

以 上